

学校タイムズ

令和6年1月31日
新潟市立大野小学校
第9号

HP <http://www.ohno-e.city-niigata.ed.jp/>

「ウェルビーイングな学校」を地域総がかりで

校長 片山 敏郎

「ウェルビーイング」という言葉をご存じでしょうか。耳慣れないかもしれませんが。

これは、今年度作られた、これから5年間の「日本の教育ビジョン」である、「第4期教育振興基本計画」で柱として掲げられた言葉です。

分かりやすくいうと、人や人の生活する場が、「身体的・精神的・社会的に良い状態にあること」です。「幸福」に近い言葉ですが、生きがいや人生の意義などを含み、将来にわたる持続的な幸福を含む言葉といえます。

これからの学校は、子供の「ウェルビーイング」を支える場であることが求められます。そのような学校は、教職員、保護者、地域一体となってこそ創り上げることができます。大野小学校は、皆様と協力して、すでに様々に学校の在り方を見直してきています。

1 ぽかぽかルーム（適応指導教室）の開設

12月から、学校や教室に足が向きづらい子供たちが、安心していられる「居場所」として、「ぽかぽかルーム」を開設しました。指導員さんとボランティアさんが、火、水、木曜日の午前中に開設してくださり、あたたかな居場所となっています。

2 ゆとりとリズムを生み出す校時表への変革

来年度から、毎週水曜日を4時間授業にします。他の日も、様々な工夫により下校完了時間を25分早めます。ゆとりとリズムある学校生活を送れるようになります。

3 全学年学級編成

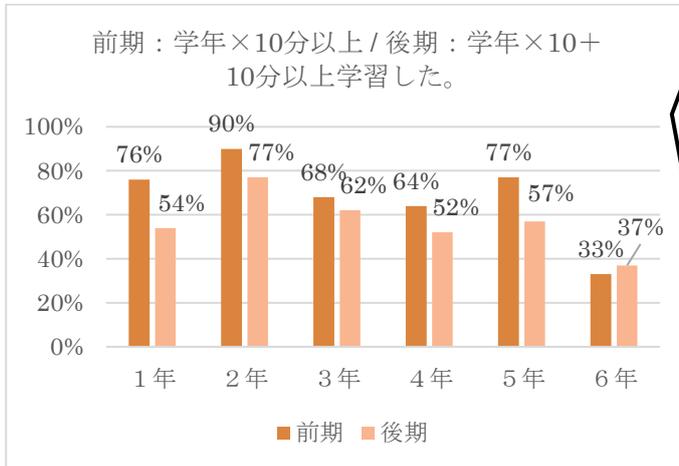
毎年学級編成することで、毎年4月から新しい友達と新しい学級を創ることができるようになります。すべての子供が、気分を一新して新年度に臨むことができるのです。

家庭学習や生活習慣の取組についても、家庭や地域の協力を得ながら、大きく変えていく予定です。自立した学習者としての子供、ウェルビーイングな子供を目指して、自分で選択判断しながら粘り強く取り組める子供を育成するために、地域総がかりで、取り組みたいものです。大野学区全体をウェルビーイングな場にしたいものです。

「学習・生活強調週間」の取組の結果について

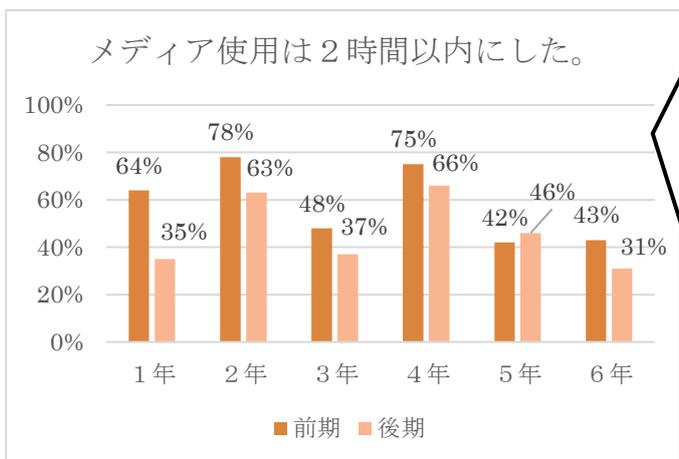
研究推進部 伊藤優美

10月31日（火）～11月7日（火）、後期の「学習・生活強調週間」が行われました。毎日の取組への声掛けやコメントなどご協力ありがとうございました。4～5日間達成できた人の学年別の割合は下の通りです。



●中学校区で合わせた「学年×10分+10分」に取組始めたばかりでした。そのため、まだ慣れていないようで、なかなか学習時間を達成することが難しかったようです。

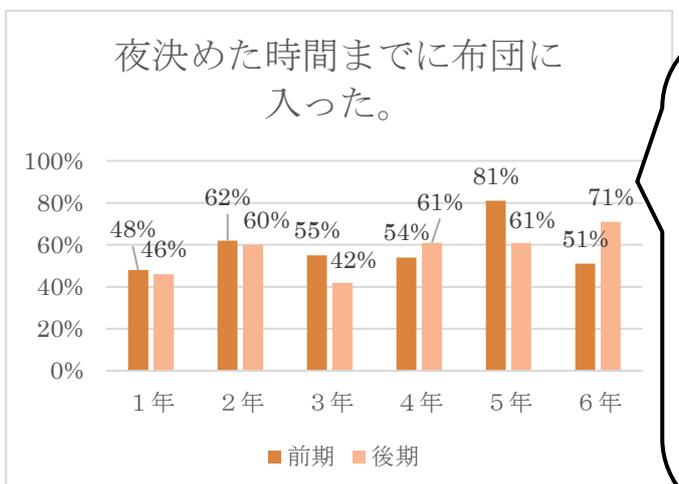
学校では、学年ごとにロイロノートの資料箱「学内共有→先生と子ども用→各学年→自学見本」に、子どもたちが実際に行った自学の見本が保存されています。それを参考にして自学をする児童が増えてきています。いろいろな自学に取り組んでほしいです。



●なかなか決められた時間内で、メディアをやめることができない児童もいるようです。学校では、毎日の取組の結果をアンケートにして、児童に示しながら指導をしてきました。

ネット依存症になると、イライラしたり無気力になったりするなど心の問題が起きたり、家族が強制的にやめさせると叫んだりするなど、たくさんの心配な問題が起こります。

親子でメディアのルールについて話し合っていたいただきたいと思います。



●自分で決めた時間に就寝しようとして意識できた児童が増えてきたようです。しかし、まだ保護者の方のご協力が必要な学年もあります。

冬休み明けで生活のリズムが整っていない児童もいますので、自分でできるようになるまで声掛けをお願いします。

寝る1時間前にはメディアをやめて翌日の準備をするなど、ゆとりをもって過ごしましょう。